消防だより

彦根市消防本部予防課 ☎22-0332・FAX22-9427

暖房器具の取り扱いにご注意を！
未然に事故を防ぎましょう

石油ストーブ ファンヒーターなど

寒い時期を迎え、これからはストーブやファンヒーターなどの暖房器具を使用する機会が多くなります。本格的な冬の到来に備え、暖房器具のお手入れは万全でしょうか。

ストーブによる主な火災は、可燃物の接触・落下、使用方法の誤り、消し忘れ、過熱、使用中の給油などが原因となっています。

火災を発生させないように、次の各ポイントに注意するよう心がけましょう。

使用にあたっての注意事項

▼石油ストーブの燃料は、灯油なのでガソリンなどを使用しない。

▼ストーブの近くに紙や衣類など、燃えやすいものを置かない。

▼ストーブの近くに可燃性のスプレー缶（ヘアースプレー用など）を置いたり、近くで使用しない。引火や爆発の危険があります。

▼カーテンなどがストーブに接触しないように、離して使用する。

▼ストーブの上には絶対に洗濯物を干さない。干していた洗濯物が落下して、火災になる恐れがあります。

▼室内の換気を十分に行う。室内の酸素が不足すると一酸化炭素などが発生し、中毒事故を引き起こす原因になります。

使用方法

▼取扱説明書をよく読んで、正しい方法で使用する。

▼給油する場合は、必ずストーブの火を消し、火が消えたことを確かめてから給油する。

▼カートリッジタンク式のものは、給油後、タンクのふたを確実に締める。

▼耐震自動消火装置付の器具を使用する。

点火および消火の確認

▼点火後は、炎の調節を行い、正常に燃焼していることを確認する。

▼外出時や就寝時には、必ず消火していることを確認する。

設置方法

▼地震などの揺れで、転倒しないように固定する必要のあるストーブはしっかり固定する。また、煙突がついているものは、指定の金具や支線などを使用して固定する。

点検・整備

▼ストーブなどは使用する前に、じゅうぶんな点検・整備を行い、故障している場合は販売店などに修理を依頼する。

危険物の保管

▼灯油を保管する容器は、金属製、またはポリエチレン製で、安全性に係る推奨マークまたは、認定証が貼付されているものを使用して、必ずふたをしっかり締める。

▼容器は火気を使う場所から遠ざけて、直射日光の当たらない風通しの良い場所に置く。

▼容器が転倒したり、落下物によって容器が破損したりしない場所に保管する。

危険物の運搬

▼ガソリンスタンドやホームセンターなどで灯油を購入して乗用車に積んで搬送する場合、容器のふたを確実に締める。給油ノズルをつけたまま運搬しないでください。

▼走行中、容器が転倒・落下または、容器から灯油が漏れたり、飛散しないよう容器をケースに収納するなどしっかり固定してください。

電気カーペット・電気毛布

石油ストーブなどの暖房器具と併用して電気カーペットや就寝時に電気毛布を使用している人も多いのではないでしょうか。

電気カーペットの上に重い家具などを置いていませんか。

取扱説明書に記載されている重量以上のものをカーペット上に置くと、内部のヒーター線を傷め、断線するなど、火災の原因になるおそれがあります。

また、長年使用している電気毛布は、使用前に内部のヒーター線がねじれたり、偏ったりしていないか点検をしましょう。

表面にキズや破れがあったり、内部のヒーター線が露出している場合は危険ですので使用しないでください。

電気こたつ

比較的安全と思われる電気こたつですが、使用方法を誤ると火災などの事故につながります。

次の点に注意してください

▼衣類や布団、座布団を中に入れたり、押し込まない。

▼電源コードを折り曲げたり、下敷きにしない。

▼コードが異常に熱かったり傷んでいたら使用を中止する。

▼ヒーターユニット内部にほこりや紙くずなどの異物がないか確認する。

▼改造したり、自分で修理したりしない。

▼就寝用として使用しない。

▼乳幼児だけで使用しない。

▼外出や長時間離れる場合は必ず電源スイッチを切り、プラグを抜く。

いずれの器具を使用する場合も過信は禁物です。

思い込みで操作せず、しっかり確認をお願いします。

話題のひろば

交通安全をテーマとした啓発動画 滋賀大生作品が優秀賞を受賞

11月1日、滋賀大生のグループが本田技研工業株式会社が主催する『こんなときが危ない！「交通安全動画・ポスター」コンテスト』で優秀賞を受賞しました。

これは、滋賀大学経済学部就業力育成支援室が実施する講義の一環で作成されたもので、🏛交通対策課も協力しました。

講義を受講した学生はチームに分かれ、動画の構成や撮影、編集作業を全て自分たちで行いました。

受賞動画を作成したグループの一人である古川奏子さんは、「自分たちに身近な『歩きスマホ』をテーマに選びました。交通事故防止に何が必要か考えることで、ふだんの行動を見直すきっかけになりました。」と話しました。受賞動画は、下記ののＵＲＬで視聴できます。

www.honda.co.jp/safetyinfo/movie_contest/

▲受賞を知らせるインターネットページの前で笑みをこぼす学生たち（左から古川さん、田中さん、片山さん）

秋の城下を駆け抜けた 第２８回彦根シティマラソン

11月9日、県立彦根総合運動場周辺で彦根シティマラソンが開かれ、３、５９６人が晩秋の城下を駆け抜けました。

小雨で肌寒い気温の中、参加者は沿道の声援を受けながらゴールを目指して力走しました。また、市内の45団体・４２０人の皆さんがボランティアとして参加、選手受付や、コース内の誘導など運営にご協力いただきました。

会場では、恒例の豚汁が振る舞われ、雨で冷えたランナーの体を温めました。ゴールした参加者は走りきった達成感で笑顔を浮かべていました。

「好成績を励みにもっとがんばります」 障害者競技会の成績報告

11月に開かれた全国障害者スポーツ大会（長崎がんばらんば大会）の陸上競技（砲丸投げ、ジャベリックスロー）で、金・銀メダルを獲得した岸田清次さん（写真右）と、スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・福岡のバスケットボール競技で優勝した滋賀県代表の首藤勇真さんが、11月20日に市役所を訪問して市長に成績を報告しました。

両大会は、障害者スポーツの国内最大級の大会で、全国各地から多くの選手が集まります。

砲丸投げで金メダルを獲得した岸田さんは、「今大会はベストに近い記録を出して優勝することができました。来年は、全国記録を目標に頑張ります」と、来年に向けて意気込んでいました。